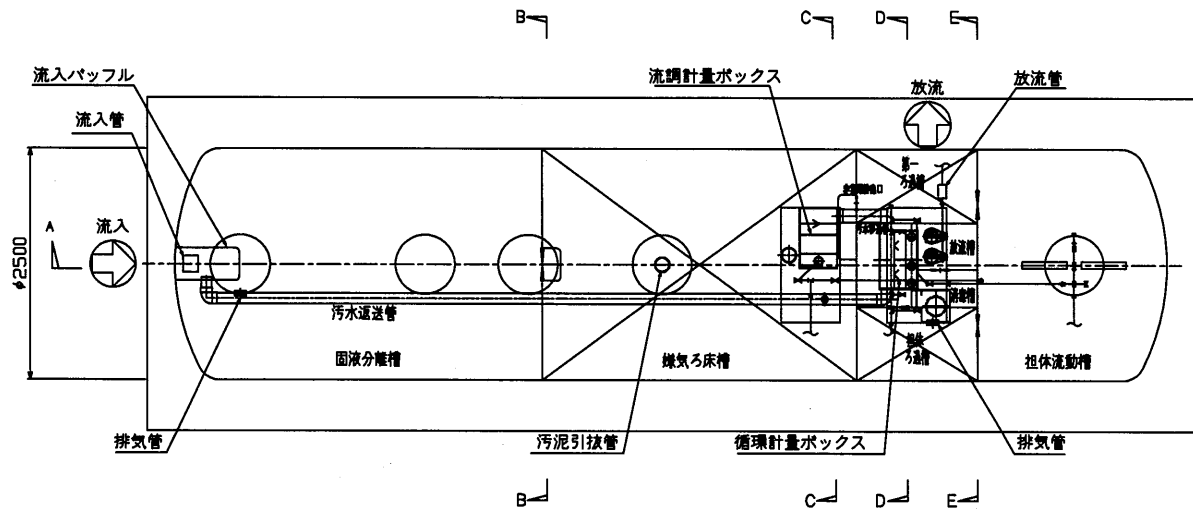


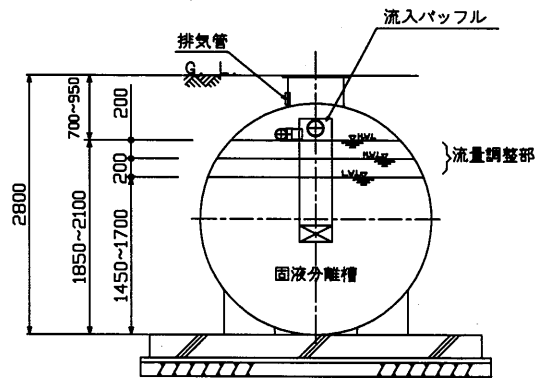
型式適合認定書別添仕様書及び図面

建築基準法施行令第35条第1項の大臣認定による担体流動ろ過循環方式
 【大臣認定番号(認定年月日): DW3N-0159(平成27年9月14日)】

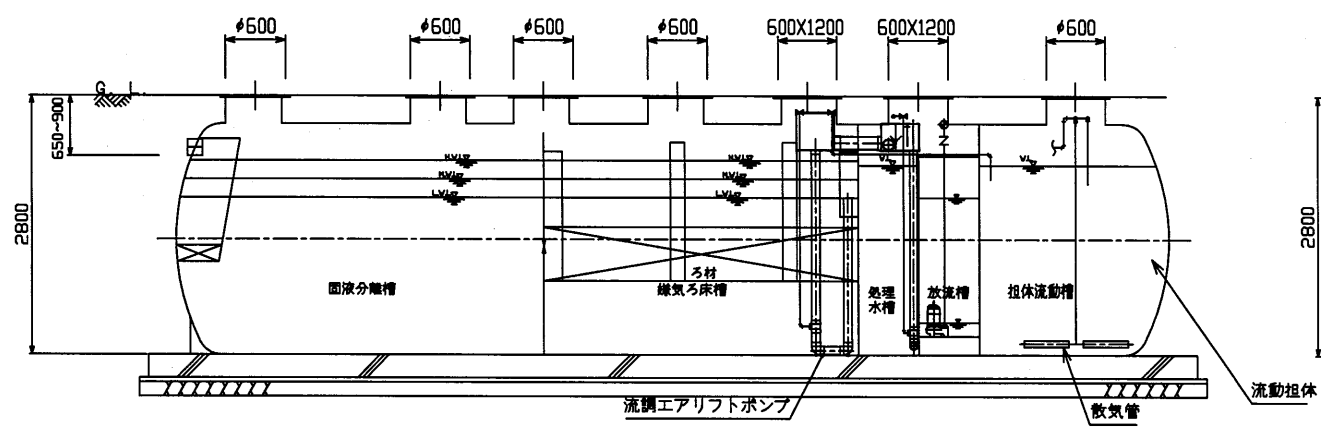
会社名	藤吉工業株式会社		
	〒453-0801 名古屋市中村区太閤4丁目2番8号 電話052-451-8261		
形式	フジヨシ浄化槽 FTZ-1A		
型式適合認定番号	型01CafOa1014691	認定年月日	令和3年1月8日
処理対象人員	51人~804人	日平均汚水量	2.55~40.2m ³ /日
流入BOD	50~450mg/L		
放流水質	大臣認定による性能 : BOD 20mg/L以下 COD 30mg/L以下 SS 10mg/L以下		



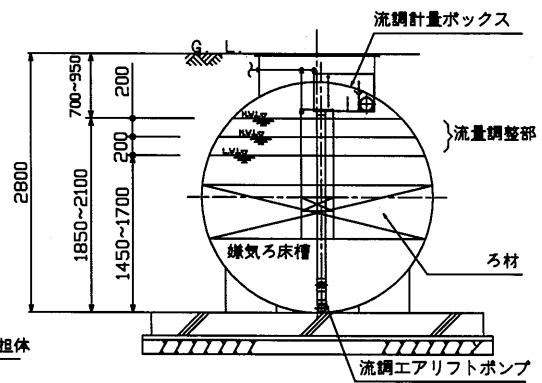
平面図



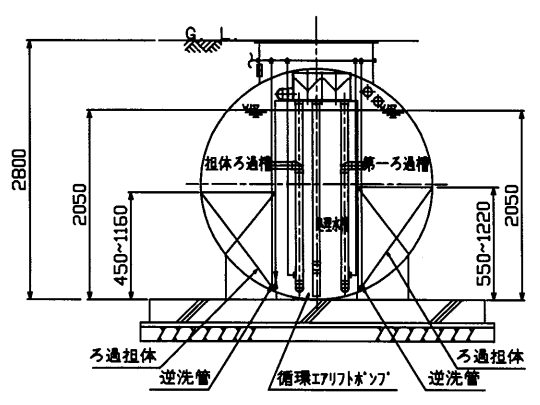
B-B断面図



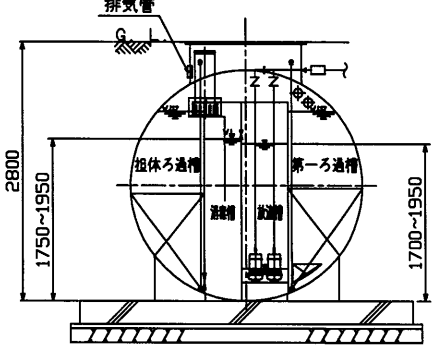
A-A断面図



C-C断面図



D-D断面図



E-E断面図

仕様表				
有効容量 (m ³)	固液分離槽	3.714~14.378		
	嫌気ろ床槽	2.843~12.085		
	流量調整部	1.548~6.080		
	第一ろ過槽	1.000~1.626		
	担体流動槽	2.984~12.892		
	担体ろ過槽	1.000~1.626		
	処理水槽	0.712~1.174		
	消毒槽	放流ポンプ槽付き 0.238~0.442、自然放流 0.266~0.456		
寸法 (mm)	固液分離槽	幅2500	長さ1200~4200 深さ1450~1700	
	嫌気ろ床槽	幅2500	長さ800~3400 深さ1450~1700	
	流量調整部	幅2500	長さ2000~7350 深さ400	
	第一ろ過槽	幅800	長さ800~1300 深さ2050	
	担体流動槽	幅2500	長さ850~3150 深さ2050	
	担体ろ過槽	幅800	長さ800~1300 深さ2050	
	処理水槽	幅900	長さ350~650 深さ2050	
材料及び機械設備の仕様	消毒槽	放流ポンプ槽付きW400、L350~650×H1750 自然放流W400、L350~650×H1750~1950		
	躯体	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック)板厚8mm以上		
	仕切板	材質:FRP(ガラス繊維強化プラスチック)板厚6~9mm以上		
	固液分離槽	有効容量(m ³)	8.0/24Q以上	
	槽容量	有効容量(m ³)	7.2/24Q以上	
	嫌気ろ床槽	充填率	40~49%	
		形状	骨格様球状	
	第一ろ過槽	材質	PPまたはPE	
		寸法	φ154mm	
	担体	比表面積	66m ² /m ³	
		形状	中空円筒状	
	担体ろ過槽	材質	PPまたはPE	
		寸法	φ14~16×L15mm	
	担体流動槽	比表面積	380m ² /m ³	
		BOD容積負荷	1.00kg/m ³ ・日以下	
担体ろ過槽	充填率	30~45%		
	形状	角形スポンジ状		
担体ろ過槽	材質	PUまたはPVA		
	寸法	20□×20mm		
担体ろ過槽	比表面積	300m ² /m ³ 以上		
	形状	中空円筒状		
担体ろ過槽	材質	PPまたはPE		
	寸法	φ14~16×L15mm		
担体ろ過槽	比表面積	380m ² /m ³		
	消毒槽	薬剤接触時間	15分以上	
消毒槽	薬剤の種類と接触方法	塩素錠剤・浸漬式		
	薬剤の貯留日数	90日以上		
送風機	形状	フリーピストン式またはダイヤフラム式またはロータリー式またはルーツ式		
	吐出風量	60~1,415L/分		
送風機	台数	1台以上		
	流入管・移流管	PVC(硬質塩化ビニール)	40~200	
放流管	汚泥移送管・エアリフト管	PVC	40~100	
	送気管	PVC	13~50	
マンホール	材質	铸铁/レジンコンクリート	内径(mm)	
		プラスチック(PP/FRP)		600
チェッカープレート	材質	600×1000		
		600×1200		
		750×1150		
		750×1650		
		1200×1200		

注) 寸法の単位はmm、容量の単位はm³とする
 注) 容量、寸法については範囲で示す。
 注) 「深さ」は有効水深とする。

特記事項

- ・流調エアリフトプロワを専用で据え付ける場合がある。
- ・振動・騒音・防音対策は必要に応じて行う。
- ・流入・設置条件によりオプション槽を組み合わせる。
- ・オプション槽とは原水ポンプ槽、油水分離槽、汚水貯留槽、処理水貯留槽、水中プロワ槽などを言う。
- ・必要に応じて消泡装置を設ける場合がある。
- ・保守点検の頻度: 1回/3ヶ月以上。清掃の頻度: 1回/6ヶ月以上。
- ・予備プロワの設置については行政庁等と相談する。